平成4年（1992年）9月10日　教皇様の声　（昭和59年10月1日第三種郵便物認可）
9　SEPTEMBER,1992　毎月10日発行　第149号

教皇様の声

苦しむ人と共におられる神

（二月十一日午後、ルルドの聖母の祝日に、教皇様は聖ペトロ聖堂でミサをあげられた。）

1

「母が子を慰めるように、私はおまえたちを慰める。」（イザヤ六六・十三）

ルルドの聖母を祝う今日、神はこのメッセージをもって私たちを招き、力づけてくださいます。

この言葉の中に、私たちの慰め主はただ主のみ、という宣言と約束がうかがえます。主は選ばれた民が待ち望んでいた解放を、私たちにもたらしてくださいます。贖い主キリストが全ての約束を果し、預言者の述べた慰めが現実のものとなったことを、今日、私たちは認め、宣言します。

「私はおまえたちを慰める。」おまえたちの神である私が、おまえたちの喜び、慰めとなろう！おまえたちを全ての罪と悪と、心身の苦しみから救いだそう。神から離れ去ったために苦しむおまえたちを、悲しみから解き放とう。憐れみをもって慰め、全ての過ちから清め、「永遠の命にわき出る水の泉となる」（ヨハネ四・十四参照）神的生命・恩寵を与えよう。それは「川のように…満ちあふれる小川のように」（イザヤ六六・十二）おまえたちに向かって流れるだろう。

これらすべてのことが、皆さんにとって支えとなるでしょう。とりわけ、どんな人の生涯にも現れる十字架の訪れの時に。十字架の光に照らしてみれば、「贖い主の尊い御血にひたされた苦しみ」（Vexilla regis参照）は、すべてのキリスト信者にとって救いの泉となるのです。

2

ルルドの聖母の祝日は恩寵をもたらす日、何千人もの巡礼者たちが、健康な人も病む人も、共にすばらしい神のみ業を思い起す日です。マッサビルの洞穴の中で、聖母の取り次ぎによって奇跡が起りました。ルルドでも、神の愛は今日なお新たな慰めを送ってくださることをお示しになりました。それは聖母の母親らしい慈愛と、メッセージを受けた聖ベルナデッタの慎ましい証言を通じて送られたものです。神はご自分の民である私たちを慰められます。私たちが御子の秘義、恩寵に満ちた無原罪の処女からお生れになった方の秘義を思うとき、慰めを得ることができます。

今日、私たちは神の望まれる聖性の生きた模範として、マリアに目を向けます。神は、キリストにおいて私たちがご自分の前に聖である者、汚れない者（エフェゾ一・四参照）となるようお望みになります。全能の神はマリアにおいて偉大なことを行われ、処女のもたらした確かな希望のしるしによって私たちを慰められます。人間のために用意された富と恩寵、そして各人の運命は、すべてマリアのうちに見出されます。マリアを通して、神が世々にお示しになる憐れみが啓示されるのです。

人間の尊厳は無原罪のマリアの姿に示され、各人の尊厳の内には聖霊の息吹がひそんでいます。処女であり母であるマリアにおいて、悪に打ち勝つ善の勝利が私たちの目にも明らかとなります。神に身を捧げた人の貞潔な愛の美しさ、結婚した人の愛が示す価値と聖化する力、神の愛の生きた模範というかたちで。無原罪のマリアには、すべての女性の使命を見出すことができます。「女性は、マリアに目を向けることで、女性としての尊厳を持って生き、女性の真の進歩を実現する秘訣を見い出すでしょう。」（救い主の母、四六番）マリアは若者たちにとってもすばらしい模範となります。ついには人々を害する物質文明の進歩が見せる華やかさに賛嘆の目を向ける若者たちも、現代社会を鼓舞する理想を福音の中に求めているからです。

3

神は「低い人々を高め、飢えた人々を良いもので満たし、…しもべイスラエルを助けられる。」（ルカ一・五二、五三、五四）

マニフィカトのこの言葉は、信仰の計画と旅路を表しています。ルルドへの巡礼に伴う今年のテーマは、聖母の次の言葉から霊感を得ています。「ルルドは貧しい人の声です。」

福音書によれば、病める人とは貧しい人であり、苦しむ人は皆、キリストが山上の説教で説いた最初の至福八端の教えによって、苦しみの秘義を理解しようとしています。

苦しむ人は、福音書の「貧しい人」の似姿です。キリストの十字架と受難に照らしてみれば、貧しさは富と賜に変ります。実際、カルワリオの極度の「貧しさ」のなかで、イエズスはご自身が御父の「しもべ」であり、全ての人を贖うしもべであることをお示しになったのです。全ての人の体と心に刻み込まれた苦しみは、困難な試練に耐える人々の真価と功績を教えてくれます。キリストのご受難の秘義から生れた教会は、人間が最初に出会うのは苦しみであること、事実、地上にいる間に全ての人は何らかの形で苦しみという現実にぶつかることを知っています。苦しむ人に付き添い、貧しい人は霊的に幸いであることを宣言する教会は、神からの慰めを取り次ぎます。

その慰めはメッセージの核心であり、希望のもとです。マリアと共に、教会は神の御言葉の実現を信じ、貧しい人は幸いであると宣言し、同時に、信じる人は幸いであるとも宣言します。「幸せなこと、主から言われたことの実現を信じた方は。」（ルカ一・四五）

4

「信じた人は幸い。」

これと同じ信仰に支えられて、苦しむ兄弟姉妹たちの心に神

Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticanoの転載許可済
© 1992

発行所
財団法人■精道教育促進協会
〒659兵庫県芦屋市船戸町12－6
TEL.0797-31-3452・FAX.0797-31-3448

の約束された慰めをもたらす人々は幸いです。

これらのことを念頭において、ここにおられる皆さん全員にご挨拶します。特に病いに伏す方々、ご自分の苦しみを十字架上の贖い主の苦しみと一致させるすべを知っておられる皆さんに。（…）

5

「マリア、あなたは女の中で祝福された方！」

エリザベトの言葉に合せて、私たちもマリアへの賛歌を歌いたいと思います。

「あなたは女の中で祝福され、ご胎内の御子も祝されたもう。」

「幸いな方、マリア。信仰の模範、キリストに至る旅路の、生きた道しるべ。」

「幸いな方、処女マリア。悲しむ人に向けられる、慈しみと母の愛の模範。」

「幸いな方、私たちに生命の泉をもたらしてくださった方。」

「幸いな方、一人ひとりを十字架上のキリストの救いをもたらす苦しみと結び付け、苦しむ人に奉仕せよと呼びかけてくださる方。」

「幸いな方、福音の道を先だって歩み、世界のあらゆる場所で、何でも御子の言われるとおりにするよう、勧めてくださる方。」

「幸いな方、貧しい人、低い人、罪人を、神がお愛しになるように愛せよと教えてくださる方。」

「幸いな方、神の母。ご胎内の御子、主イエズス・キリストも祝せられ給う。アーメン。」

（九二・二・十一）

無原罪の御宿り

アメリカの発見と福音宣教五百年目を記念して行っている霊的巡礼の旅は、今回、アメリカ合衆国の首都ワシントンにある「無原罪の御宿り」聖堂へと向かいます。

一九五九年、荘厳な献堂式を行ったこの教会は、今日なお北米カトリックの宗教的伝統の中でマリアへの崇敬が果している役割を、如実に示しています。まことに、神の御母への愛は、世界各地からのカトリック移住者たちと宣教者たちがこの高貴にして広大な国土に伝えた、特別の霊的遺産となるものです。

今からちょうど二百年前の一七九二年、最初のカトリック司教ジョン・キャロル師は、この若い国を聖母のご保護のもとに置きました。一八四六年、教皇ピオ四世はボルティモアの第六回地方会議に集まったアメリカ司教団の願いを受けて、無原罪の聖母をアメリカ合衆国の守護の聖人と宣言しました。

合衆国と大陸全土からの巡礼者たちが、引きも切らずこのすばらしい聖堂へ、無原罪の御宿りの聖母を訪ねて来ます。壮大な聖堂は一九二六年に完成しました。特に合衆国内に数多く住む中南米出身の信者たち、教会の特別な司牧的配慮の対象である人々は、しばしばグアダルーペの聖母のチャペルを訪れています。

一九七九年十月七日、ここを訪れた際に申しましたが、「この聖堂は全アメリカ人、旧世界のさまざまな国々からやってきた人々の子孫たちと声を合わせて、私たちに語りかけてきます。」「共通の母のもとへ皆で立ち返る」ために。

記念祝賀会に寄せて、合衆国の司教方は、ラテン・アメリカ司教団と声をそろえて、一九九二年を「公的、私的を問わず、生活の中でイエズス・キリストの福音を生き、分かち合う年にしよう」とキリスト信者に呼びかけました。「遺産と希望」という意味深長なタイトルのついた司牧書簡の中で、「アメリカ大陸に現在の文明が成立するうえで、福音宣教が重大な役割を果したこと」、また、過去に鑑みて「同時代の挑戦に新しい認識をもって」立ち向かえることをぜひとも心に留めるべきである、と確言しています。

「教会はキリストの福音を永久に述べ伝える。」　私たちは皆、「新たな福音宣教に、正義と平和と、貧しい人々の必要を満たす義務に」携わるよう召されています。

（…）無原罪の聖母に願いましょう。福音宣教を続ける教会の存在が、アメリカ大陸の隅々にまで、さらに効果を及ぼしますように。

（三・一）

秘跡的な存在

教会シリーズ7

1

「教会はキリストにおけるいわば秘跡、すなわち神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具である。」（教会憲章、一番）　第二バチカン公会議の教会憲章はこのように述べていますが、これについて少し説明しなければなりません。まず「教会の秘義」と題する教会憲章第一章が教会を秘跡として表現していることに注目しましょう。したがって教会の秘跡性を理解するには、憲章の第一章でわかるように、教会は秘義であるという考えの中で見なければなりません。

2

神の救いのご計画は教会、すなわちキリストの言葉と生涯によって啓示された「神の国の秘義」において実現しましたから、教会は神の秘義です。この秘義はまずキリストによって弟子たちに明かされました。「あなたたちには神の国の秘義が授けられたけれども、外にいるあの人々にはすべてたとえで教える。」（マルコ四・十一）

以前のカテケージスで説明した神の国のたとえは、まず託身を通して、次にキリストの過越、つまり十字架と復活、そしてエルサレムでの聖霊降臨において実現しました。そのとき弟子たちと最初の共同体のメンバーは、真理の霊による洗礼を受けたのです。そして神の救いのご計画の永遠の秘義が新しい神の民・教会として目に見える形で与えられました。

3

パウロの手紙がみごとに語っています。パウロはキリストを宣言しました。「永遠の昔から沈黙に包まれていたのにいま現された。」（ローマ十六・二五～二六）「世々代々隠されていた奥義…それは今や聖徒に現された。異邦人へのこの秘義の光栄の富がいかばかりのものかを、神は聖徒たちに知らせたいと思召した。それはあなたたちの中にいますキリストであり、光栄の希望である。」（コロサイ一・二六～二七）　心を慰め、愛で結び、完全な知識に満たすために明かされた秘義でした。（コロサイ二・二参照）　パウロはコロサイ人に祈りをも勧めています。「神がキリストの秘義を告げるために、私たちに宣教の門を開かれるように。私はそのために鎖につながれている。私が話さねばならぬことばでキリストを宣言できるように祈れ。」（コロ

説教・講話・書簡等の抄訳

秘跡と儀式

サイ四・三～四）

4 神の秘義、キリストにおける救いの秘義が特にキリストの秘義であるなら、それは「人間のために」計画された秘義です。エフェゾ人への手紙は次のように記しています。「この秘義は、霊が今日その聖なる使徒たちと預言者たちには現したが、そのようには前代の人々の子らには現されなかった。それは、異邦人も福音によってキリスト・イエズスにおいて、同じ世継ぎとなり、同じ体の肢体となり、同じ約束にあずかることである。私はその福音の奉仕者となった。それは、神の力ある業によって、私に与えられた恩寵の賜によることである。」（エフェゾ三・五～七）

5 パウロの教えは再び第二バチカン公会議で取り上げられました。「地上から上げられたキリストは、すべての人を自分のもとに引き寄せた。（ヨハネ十二・三二参照）キリストは死者の中から復活して（ローマ六・九参照）生命を与える自分の霊を弟子たちにそそぎこみ、その霊によって自分の体、すなわち教会を救いの普遍的秘跡として建てた。」（教会憲章、四八番）「神は救いの作者であり、一致と平和の源であるイエズスを信じ仰ぐ人々を一つの集団に招き集めて、教会を設立した。それは、教会が、すべての人と個の人にとって、救いをもたらす一致の見える秘跡となるためである。」（教会憲章、九番）

救いの計画は、人類に示され、キリストにおいて実現しましたが、それは御父の永遠のイニシアチブによるものであり、またそれが教会の土台となりました。教会において、聖霊の働きを通して、この秘義が弟子たちをはじめ、全ての人に分け与えられました。教会は、キリストの秘義にあずかることによってキリストの体です。パウロが示した「教会はキリストの体」という表象と概念は、この世と人類の歴史の中に教会の秘義と可視的特徴を表したのです。

6 ギリシャ語のミステリオンはラテン語でサクラメントゥムと訳されました。公会議の教えでは、秘義と同義で秘跡という言葉が使われています。ローマカトリック教会において、サクラメントゥムは具体的に七つの秘跡を表す言葉となりました。もちろん、秘跡という語は類比的に教会に当てはめられます。

秘跡とは「聖性の実在であり、見えない恩寵の見える現れである」（DS 1639参照）とトリエント公会議は教えていますが、確かにこの意味で秘跡という言葉を教会に当てはめるのは類比的な意味においてであることは明らかです。

しかしながら、これは教会が何であるかを表現するのに十分ではありません。教会はしるしですが、しるしであるだけではありません。教会は贖いの実りです。秘跡は聖化の手段であり、教会は聖化された人々の集まりですから、教会は救いの業という使命（目的）そのものをなしているのです。（エフェゾ五・二五～二七参照）

このように説明を加えたあとでならば、「秘跡」という言葉を教会に当てはめることができるでしょう。教会は、聖霊の働きを通して人間のために用意され、キリストによって実現された救いのしるしなのです。しるしは目に見えます。神の民の共同体である教会は見えるものです。しるしには効果があります。教会に属しているかぎり、人々のためにキリストとの一致と救いに必要な恩寵の全てを獲得してくれるのです。

7 秘跡がキリストによる救いの恩寵を受けるためのしるしだとすれば、教会と秘跡との有機的な関連において、教会を秘跡であると捉えることはできますが、実体的に同じものではありません。七つの秘跡の神的性格と効果を教会の全ての機能や使命に当てはめることはできません。それだけでなく、聖体にはキリストが現存されますが、これを全面的に教会に適応することはできません。これらの違いについては別の機会に述べましょう。しかし、嬉しいことに秘跡としての教会とそれぞれの秘跡との関連は特に聖体に関して密接であり、本質的であるという結論を得ることができます。秘跡としての教会が聖体を記念するとき、聖体が教会を実現させ、現存させます。教会は聖体に表され、聖体が教会をつくります。特に聖体において教会は存在し、「神との密接な交わり」（教会憲章、一番）の秘跡となるのです。

（九一・十一・二七）

（一月二十六日、教皇様はローマでの総会に集まった典礼秘跡省のメンバーと会見された。）

◆（…）皆さんの新しい名称は聖省の任務をよく表し、公会議の諸教説と一九八三年教会法典の条項に適合するものです。「全典礼生活の中心である」聖体祭儀と諸秘跡（典礼憲章六番）は「イエズス・キリストの司祭職の行使」（同七番）すなわち典礼の基本的構成要素です。典礼活動によって聖化する任務は果されます。「教会は、典礼により、特別の様式で、聖化する任務を果す。」（新教会法典八三四番）

典礼について述べることは、まず諸秘跡に言及することを意味しますが、諸秘跡について述べるとき、その条件が典礼儀式であることを考慮しないわけにはいきません。と言うのも、それは行動のことであって、抽象的なことではないからです。諸秘跡は教会の典礼であり、礼拝の行為であり、キリストの復活の秘義からほとばしる光栄への恵みの道具であり、教会の本物の信仰のしるしであり、表現です。

一方で、秘跡に関する規律について特別の言及をするのは正当なことです。それは、公会議の憲章が示すように、典礼を形成していく上での必須部分だからです。しかも、秘跡については一大規律があると言わなければなりません。むしろこう言えましょうか。教会の伴侶であるキリストが、聖霊を通して教会に委託されたいわゆる秘跡の「本質」を、この規律によって教会は忠実に維持していくのです。事実、この目的のために諸秘跡は教会の最高の権威によって規制されており、決して特定の共同体の発想や、ましてや個人に委譲されるものではありません。

◆（…）使徒書簡「ヴィチェシムス・クイントゥス・アンヌス」（十六番）の中で、典礼の順応は教会の今日的課題の一つであると指摘しました。このことの意味は、特定の教会が典礼刷新の適用、つまり順応もしくは土着化について新しい任務を果すこと

「教会を愛する」（新刊）　福者ホセマリア・エスクリバー師の説教のうち、未邦訳のもの三つと、スペイン・ナバラ大学での講演「愛すべき天地」を含む四つの説教を収録。読者の方々が教会への愛に引き込まれ、日々の生活の中でより深く教会を愛し、より効果的に教会のために働いてくだされば本書の目的は達成されるでしょう。
定価一〇〇〇円、〒三〇〇円　お申し込み、お問い合わせは精道教育促進協会まで。

不変の教え

を示唆するものではありません。それはまた、代わりの儀式を作りだすという意味での土着化を指すわけでもありません。皆さんが研究された要綱で明らかに示されているように、各教会の任務は、公会議の典礼憲章の三十七番から四十番で予見されるものを正確に適用していくことにありますし、ローマ典礼の範囲内で発展するものでなければなりません。結局、これはキリスト教典礼の土着化一般を論じる問題ではなくて、むしろカトリック教会が立法化した事柄に関連して、これらの一般諸原則がどう具体化されるかを示そうとするものです。

どこの国でも、福音宣教と典礼儀式との最初の接触は、最も注意を払うべき事実です。従って注意深い総合学科的な、あるいは学際的な研究を抜きにしていろいろな変更を提案することはできませんし、即席の対処を避け、有益または必要な場合だけの順応にとどめなければなりません。（典礼憲章、四十番）

他方、ローマ典礼に属するとは、地方の個々の教会で祝われる典礼が、同じローマ典礼であることが互いにわかりあえなければならないということです。典礼憲章はこれに関して、「ローマ典礼様式の本質的統一を保ったうえで」（三八番）と言っています。こういうわけで、土着化の過程全体にわたる全てのことについて、司教会議と聖座とが緊密に協力しなければなりません。ローマ典礼の同一性を保ちながらも、キリスト教共同体の信者が、自分たちの文化のせいで、一つの儀式が自分を適当に表現するものとは感じられないような場合に時宜にかなった順応を具体化した結果、自らも典礼儀式に参加していると感じることができるような協力のやり方の問題なのです。このような協力は必要ですが、これに関して正しい手順を踏まないと、著しい害を引き起すことになります。公会議の典礼刷新を実現する過程は、実際はまだその途上にあるので、後戻りしたり、信者の宗教感情に十分注意を払わずに干渉したりして、これを曲げることは許されません。キリスト信者は今や、教会の礼拝に正式に参加する機会と保証を与えられているのです。

◆ローマ典礼総則計画については、司牧指針付きの神学教本を準備しています。そうせざるを得なかった理由は、秘跡は暫定的な手段ではなく、根本的なものだからであり、教会は信仰と信仰の秘跡との上に築かれているからです。それが特別なわけは、諸秘跡が、栄光のうちに父なる神の右に座したもうキリストのみわざでありながら、聖霊によってキリストがこの世に弟子たちと共に居られるという事実によります。キリストのみわざでありながら、主の過越の神秘を命ぜられたとおりに教会が祝い行う秘跡の行為によって、それが目に見えるものとなるのです。種々の状況に応じて使われるそれぞれのしるしによって、キリスト者は聖霊と真理のうちに礼拝し、教会で聖化されるのです。

諸秘跡のしるしについて、その優れてキリスト論的・三位一体論的な特性を強調しなければなりません。諸秘跡を祝うのは、確かに洗礼を受けた者の共同体ではありますが、これは父なる神に、私たちを救ってくださった御働きに対して感謝を捧げることによって果されるのであって、歴史上ただ一度だけ御父の独り子によってなされたその御働き、つまりキリストの御働きに感謝を捧げます。他方、教会が求めて止まない聖霊の御力を栄光の主から受け取ることにもなるのです。

こういうわけで、諸秘跡は基本的に礼拝の行為であって、イエズス・キリストが御父に、十字架の上で私たちの救いのために捧げられ、また絶え間なく捧げ続けられる聖化の礼拝がそこに実現します。諸秘跡では、キリストの行為がつねに教会の活動に優先します。それは私たちに伝えられる贖い主の恵みであり、私たちが受けた過越の神秘から来る霊的交わりです。諸秘跡の司式者は、ほかならぬ主イエズスです。

こういう精神に従って私は、諸秘跡を「つつましく、かつ貴重な」（和解と悔悛、三一番参照）と申しましたが、ローマ典礼祈祷書文は「言いようのない」（四旬節第四週の月曜日の集祷文）また「天国のような」（主の降誕後第五日目の奉納祈願）と呼んでいます。ここで、人々がナザレトのイエズスに会ったとき起ったことが、現在も再現されていることが分ります。（ルカ四・二二参照）　諸秘跡を単なる儀式の行為としか見ない人々は、秘跡の祝いによって人類のために起きている「私たちの貧しさとあなたの偉大さとの出会い」を経験しようにも、決してできないのです。ナザレトの住人が単なる「大工の子」しか見ず、救い主の不思議なわざを熟考することができなかったのと軌を一にするものです。

◆現代において秘跡の使徒職を困難にしているものがあり、私たちはそれに対抗しなければなりません。それは、目に見え、実効のある効率性にのみ価値を認める立場です。信仰がなければ、秘跡を理解することはできません。秘跡を祝うことについても同じことが言えます。私たちの祝う神秘が私たちを越えたものであるという確信あってのみ、秘跡の聖務者（司式者）として「この世ならぬ恩恵の奉仕者」（トリエント公会議第十六総会、第六章DS1685参照）として行動することができるのであって、これは信者の集いで私たちがキリストの「ペルソナにおいて」その「代理者」として、キリストの道具であり、同時に、教会が主に依存することのしるしでもあるという自覚の下に行われるのです。

カテケージスの必要

（…）特に、子供たち、若者、成人へのカテケージスを進めてくださるよう心からお願いします。皆さんの最も基本的で重要な務めとして、イエズス・キリストの豊かさと、今日の世界において真に必要なキリスト教信仰への呼びかけを人々に示してください。同じく若い家庭の信仰生活にも、特別の配慮をお願いします。司祭職と修道生活への召命を育む、彼らの熱意を暖かく見守ってください。確信をもって、たゆまず、これらの務めに取り組んでいただきたいと思います。姉妹である他の教会への配慮も疎かにせず、「教会憲章」の示す指針に従いながら。

要理教育に加え、父兄が望むなら、全ての児童・生徒が学校でも適切な宗教教育を受けられるよう配慮する必要があります。これは家族、教師、教区共同体が手を取り合って続け、発展させなければならない使命です。皆さんはつねに現れる困難にも、この大切な使命への取り組みを挫かれてはならないのです。（…）

（九一・十一・十八）

「教皇様の声」　ヨハネ・パウロ二世教皇の説教、書簡、講話等を解説なしにそのまま伝える月刊紙　■毎月十日発行　■定価　一部八十円
送料実費　■一年予約九百円　送料六百円　■二十部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替
神戸
3-72393